

課題

自動車事故による後遺障害を負われた方を介護するご家族の高齢化の進展等により、介護者がいなくなる、又は介護が難しくなった後には障害者支援施設及びグループホームが受け皿となり得るが、これらの施設には以下の課題がある。

- ・喀痰吸引等の医療行為を行える介護職員が少ない(特に夜間の体制が不十分)
- ・医療機器等(※)の未導入、老朽化により、安心・安全な介護が困難
 - * また、介護職員の身体的負担が大きく、腰痛、体調不調等による離職、休職等により職員の確保ができないこともある。

⇒ **重度後遺障害の方を受入可能な施設が不十分**

(※) 喀痰吸引器、特殊浴槽、介護ベッド(電動、超低床)、介護リフト 等)



期待される効果

医療機器等の購入費、人材雇用費、研修等経費を補助することにより

- ・職員の確保、喀痰吸引等の研修による体制の拡充
- ・医療機器等の導入による介護要員の効率化(3~4名で対応している入浴等の介護支援が1~2名で対応可能等)。
 - * 副次的効果として、介護職員の離職等の回避も見込まれる。

⇒ **夜間も含めて24時間重度後遺障害の方を受入可能な施設の増加、受入定員の拡大、持続的・安定的な受入**

平成30年度補助対象事業者: 23事業者(障害者支援施設 22者、グループホーム 1者)